

発行

(財)山形県体育協会

山形県スポーツ少年団

山形市松山 2-11-30

☎(023)625-5750

印刷 (株)大風印刷

大空に翔る

支部だより



村山支部指導者研修会



春の交通安全県民運動に参加(啓発活動) 国道13号線形橋付近 (最上支部)



第33回日独スポーツ少年団同時交流受入事業 (置賜支部)



第44回全国スポーツ少年大会 (庄内支部)

お礼申し上げます。

昨今、教育論争が大きくなっています。国としての教育基本法の見直し、心や体の問題等、いずれも極めて重要な、そして難しい問題ですが、今の社会で一番良い解決方法は、「スポーツの実践」による人づくりであると確信しているものです。子供達一人一人が元気に育って欲しいのは万人の願いであります。私共スポーツ少年団関係者は、この意義ある活動を認識し、これまで以上に頑張らなければと考えている今日この頃です。

終わりになりましたが、いつもご指導、ご支援を戴いております教育委員会や体育協会、そして多くの関係する方々に厚くお礼申し上げます、ご挨拶いたします。



山形県スポーツ少年団
本部長 原田 薫

あいさつ

異変を感じる暖冬ですが、皆様からはいつもスポーツ少年団活動にご尽力を戴き、心から感謝申し上げます。

お蔭さまで、平成十八年度事業も、それぞれの成果を上げ無事終わる事が出来ました。ことに、長い期間に亘って準備をし、開催しました全国スポーツ少年大会は大成を収め、参加者や関係の方々から高い評価を受けました事は大変嬉しく、また本県スポーツ少年団組織の誇りでもあります。ご指導、ご協力を賜りました多くの方々には厚くお礼申し上げます。

特集

リーダーズアクション2006 出羽の地で大きく広がれ友情の輪 第44回全国スポーツ少年大会山形大会報告

7月29日～8月1日

鶴岡市小真木原公園を主会場に全国から373名の団員・指導者が参加して第44回全国スポーツ少年大会山形大会が開催された。

開会式は、鶴岡市小真木原総合体育館アリーナで挙行され、原田薫実行委員長が開会宣言を行った。鶴岡市立鶴岡第一中学校吹奏楽部によるファンファーレ、国歌斉唱、「若い僕ら」の伴奏も大会に花を添えてくれた。長沼健日本スポーツ少年団本部長と文部科学省スポーツ・青少年局生涯スポーツ課、長登健課長補佐があいさつを、佐藤敏彦山形県教育委員会教育長、富塚陽一鶴岡市長から歓迎の言葉を頂いた。団員綱領の朗読後、佐藤凛太郎君と齋藤菜さんが誓いの言葉を述べ、4日間の大会の成功を誓い合った。大会の安全祈願として出羽三山山伏による修祓を行って頂いた。

【大会一日目】

文化学習活動

山形県の伝統文化にふれるということで鶴岡市立東栄小学校の六年生三十名が踊る「獅子踊り」の鑑賞を行った。鶴岡市藤島地域は、古くから「獅子の里」とよばれているところで、千二百年以上も昔から「獅子踊り」が伝えられていた。その伝統を引き継いでいる山形の子どもの姿を見てもうらい、伝統文化を引き継ぐことの素晴らしさと大切さを感じてほしいという願いがあった。

仲間作り交流活動

①リーダーとジャンケン②あなたの血液型は？③勝ったら、相手のサインをもらおう、というゲームで県リーダーの五十嵐美咲希さんと廣川由香さんが団員達の緊張感をほぐし、仲間作りの手助けをしようという頑張ってくれた。他のリーダーも各県の団員の中に入って仲間作りの雰囲気盛り上げてくれた。この頑張りがあったからこそ、四日間スムーズに交流ができたのだと思う。



【大会二日目】

SHIPS活動

大会初日は打って変わって二日目は朝から快晴に恵まれた。小真木原公園の芝も夏の日光に輝くほどの好コンディションとなった。梁瀬吉弘山形県副本部長のあいさつの後、山形県代表の島貫良多君と鈴木桃佳さんの力強い選手宣誓、伊藤忠男鶴岡市本部員の「フレイボール」のコールで競技の火蓋は切って落とされた。

合同チームを含む四三チームを五つのグループに分け、誘導リーダーの指示のもと各会場で競技が開始された。一つの競技時間を一時間とし、むかで競走、大縄跳び、大玉転がし、ディスクゴルフ、障害物競走の五種目をローテーションするようにした。誘導するリーダーの役割は大きかった。
優勝チーム ◎総合（愛知県）
◎むかで競走（静岡県） ◎大縄跳び（滋賀県） ◎大玉ころがし（京都府&鳥取県） ◎ディスクゴルフ（京都府&鳥取県） ◎障害物競走（愛知県）



【大会三日目】

野外活動

山形の自然に触れながら各県の団員が団結できるような五つの野外活動を設定し、選択してもらいました。各県の希望通りにグループ分けができ、どの活動にも意欲的に参加している団員の姿がありました。五つの会場での活動となり、運営スタッフには大変ご苦労をおかけしましたが、県内の指導者、市町教育委員会関係者の絶大な協力がありました。どの活動にも団員、指導者の満足した笑顔があり、山形の自然を体いっぱいと感じることができたようでした。

奥の細道石段登り（鶴岡市・羽黒山）

遙かなる歴史の浪漫が薫る山伏と信仰の山、羽黒山。その羽黒山の石段登りにチャレンジしました。五重塔、樹齢四百年の杉並木を通り、石段を登った後は、月山高原で栽培されたブルーベリー狩りを楽しみました。

雄大で神秘に満ちた羽黒山独特の雰囲気包まれながら、心地よく汗を流し、格別の爽快感と達成感を得た様子でした。甘酸っぱいブルーベリーに舌鼓を打ちながら、雄大な鳥海山や庄内平野の広大な田園風景は参加者の記憶に残るこころと思えます。



手作りいかた体験

(鶴岡市・由良海岸)

大小異なる竹十本と発泡スチロールで出来た浮き六つを材料とし、県毎に自分の手でいかだをつくりました。そのいかだをレスキュー艇で沖まで引張ってもらい、みんなで力を合わせて岸までオールで漕いで戻ってきました。当日は、空一面澄み渡る晴天でしたが、強い北風のため、予定していた白山島を一周するコースではなく、北に向かつて約一kmの地点から戻ってくることにしました。団員、指導者ともに笑顔に溢れ、自分達で作ったいかだでの船旅が本当に楽しかったことを物語っていました。

ヨット乗船体験

(鶴岡市・由良海岸)

澄み渡る青空と穏やかな日本海が、全国の団員、指導者を歓迎するかのようでした。ヨット体験は、小型二人乗りヨットを用い、指導者と同船し自然の力だけを利用する操船方法を一通り学んだ後、自らセーラー、ティラー(舵の柄)を操作し、爽快な潮風を全身で感じながらセーリングを楽しみました。また、クルージング体験では、風を切り、波を裂きながら進むクルーザーに歓喜し、普段見ることのない海から見る陸地の眺望を楽しみ、改めて自然の雄大さを感じてくれたことと思います。



カヌー体験

(遊佐町・西浜海岸)

北には鳥海山がそびえ、西には飛鳥が浮かぶ雄大な自然の中でカヌー体験が始まりました。快晴ではありませんでしたが、テントには幾重にもロープが張られるほどの強い風は吹いていました。初めて操作する人も多く、真っ直ぐに進めずグルグルと回ったり、後退したりと苦戦をしていました。時間が経つにつれてパドル捌きも上手になり、自然を相手に奮闘する姿に逞しさを感じました。県対抗リレーも行い、素晴らしいレースに県を越えた大きな声援が飛び交い、カヌーを通して、みんなの心が一つになったように感じました。

鳥海山ミニ登山

(遊佐町・鳥海山)

みんなの願いが通じたのか、当日は最高の登山日和となりました。おにぎり二個、ペットボトル二本、果物にお菓子と食べ物を持ち、登り始めはハイキング気分を味わっていました。しかし、二十分を過ぎる頃には、次第に汗がにじみ、だんだん口数も少なくなってきました。鳥海山は東北で二番目に高い山で「出羽富士」とも呼ばれており、眼下に広がる日本海と庄内平野の大パノラマは登った者にしか味わうことのない感動があったと思います。澄み切った空気の中での昼食は格別でした。

交歓交流会

山形を知ろう！そして、交流！

小真木原総合体育館アリーナのステージ上のスクリーンに映し出された雪景色の映像とともに須貝智郎さんが登場し、交歓交流会がスタートした。須貝さんの山形弁のトークと歌で、会場が一気に和やかな雰囲気包まれた。須貝さんの次に山形県リーダー会によるパラパラダンスとオリジナルダンスを参加者全員で行った。リーダーは事前研修や大会期間中の空いた時間、事前に練習できなかった人のために深夜まで練習を行い本番に備えてくれた。参加者も交流会で楽しく踊れるように、朝の集いや夜の自由時間に交流を兼ねて練習を行った。その成果が出て、団員はもちろん指導者も楽しくダンスをすることができた。ダンスが盛り上がるのと参加者がステージに集まったり、アリーナのあちらこちらで自然と輪ができてきたり、大いに盛り上がり会場が若いエネルギーで満ち溢れていた。



交流会の最後は、須貝さんと一緒に音楽活動をしているAKEMIさんが登場し、手話を交えながら「生命・愛・平和」をテーマにした歌を披露してくれました。その歌や語り込まれたメッセージは、団員の心を打ち、いつの間にかたくさんの団員がステージの上でAKEMIさんといっしょに大きな声で歌っていた。歌とともにステージ上の大きなスクリーンには、三日間の楽しかった思い出のスクライドが映し出され、交流会は幕を閉じた。



終わりに

第四十四回全国スポーツ少年大会山形大会は、県内のスポーツ少年団関係者の絶大なるご支援、ご協力のもと無事終了することができました。心より御礼申し上げます。

大雨による土砂崩れでの羽越本線の不通、直前の大雨での交通手段の変更など、大会自体も大幅な変更が予想された状況でした。しかし、大会二日目からは夏空に変わり、爽やかな天候のもと予定通りすべての日程を実施することができました。大会を支えていただいた関係団体・機関、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

山形県スポーツ少年団リーダー会は、県内の高校生から二十一歳までを対象とした、スポーツが大好きで、将来スポーツ指導者を目指している、またスポーツ少年団活動を楽しみたいと思っているスポーツ少年団員が集まった会です。

山形県リーダー会はあついせ!

リーダーは指導者と区別し、団員の代表者として、指導者と後輩の団員とのパイプ役を担います。また、団員のお兄さん、お姉さん的な人であり身近な目標となる先輩です。そして、将来の指導者でもあり、スポーツ少年団ではリーダーを育てるために毎年研修会や交流会が開催されています。

毎年夏に、中学生を対象に開催されるジュニアリーダーに開催されるジュニアリーダーに参加すると、ジュニアリーダーに認定され、更に全国のジュニアリーダーの資格を持つ高校生以上を対象に開催されるシニアリーダースクールに参加すると、シニアリーダーに認定されます。このシニアリーダーを取得することにより、ドイツ派遣団員や認定員の資格が得られます。そして、リーダーとして各スポーツ少年団で活動し、将来は自分の単位団で指導者となり、団員達を育成指導していくことを目標としています。

リーダーの活動はスポーツを楽しむだけでなく、社会活動や文化活動、また、スポーツ少年団事業の運営補助も行っています。

第44回全国スポーツ少年大会

今年度は、庄内を会場として「第十四回全国スポーツ少年大会」が開催され、私達リーダー会も運営補助として参加しました。この大会は競技スポーツの大会ではなく、全国から各種目のスポーツ少年団員が集まり、スポーツ活動や野外活動を通じ交流を図る大会です。私達リーダーは事前研修を行い、交流活動の企画や準備を行いました。大会期間中は開会式等の式典で司会・進行を、スポーツ活動や野外活動ではスタンプとして準備を行った。参加者と共に活動しました。大会プログラムは、私達リーダーが創作したダンスを行い、そのダンスをみんなが楽しく踊ってもらうことができ、大変うれしかったです。全国の仲間と、日頃の団活動のことや学校、生活の話をしたり、多くの友達も出来ました。



第10回北海道・東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

また、県総合運動公園で「第十回北海道・東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会」が開催されました。

この研究大会は、北海道と東北のリーダー会員が集まり、互いに研修を通じ、リーダー会の発展と将来の指導者となるために研修するものです。リーダー会活動についてのディスカッションや野外活動、レクリエーションを行い、自らが楽しむだけでなく、単位団や各リーダー会に戻った時に、それを伝えるため、その活動を学びます。

今大会は山形県開催のため、プログラムの企画、会場や物品準備、大会運営をリーダーが行いました。ほとんどが初めてですが、リーダー全員が頑張りで成功に終わることが出来ました。

県内には、ジュニア、シニアリーダーの資格を持った人がまだ少なく、もっと多くの団からリーダーを目指す中学生・高校生が増えてくれることを願っています。そして、活動の場がない、今後リーダーとしてどのようにしたら

と悩んでいるリーダーの皆さん。是非、私達と一緒にリーダー会として活動し、リーダーとしての考え、スポーツの楽しみ方を広げてみませんか? 入会の手続き等は県の事務局にお問合せ下さい。

この研究大会は、北海道と東北のリーダー会員が集まり、互いに研修を通じ、リーダー会の発展と将来の指導者となるために研修するものです。リーダー会活動についてのディスカッションや野外活動、レクリエーションを行い、自らが楽しむだけでなく、単位団や各リーダー会に戻った時に、それを伝えるため、その活動を学びます。



「市町村の動き」

●酒田市(平田支部)

庄内北部・一市四町の合併協議を受け、スポーツ少年団も合併に向けての協議を平成十五年度から始めました。酒田市と飽海郡スポーツ少年団の本部長会議に副本部長と事務局を含め、一市四町本部の事業内容を整理・検討しました。各本部の登録費や本部事業、指導者協議会等が主な違いでそれぞれが独自の活動をしていることが改めて確認され、七つのどのパターンとすべきか、何を継続していくのがベターなのか等話し合われました。

そのなかで遊佐町が庄内北部合併協議会から離脱することとなりましたが、一市三町がそれぞれ市町長等へ、また合併の主体となる酒田市長等に対し「ひともの、こころ」に集約した要望書を飽海郡スポーツ少年団として提出することと合併前の活動を終えたところです。スポーツ少年団は市町合併時には、従来の形のまま存続し、平成十八年度から合併・統合することとし、本部規約は事務局作成(案)を一市三町本部長・副本部長等会議で了解し、平成十七年度末に各本部は解散し、平成十八年度に新・酒田市スポーツ少年団として改組されたところです。

このなかで、三年間の期限付きで旧三町を支部組織として残し、支部独自活動を展開することとしました。また、遊佐町を含めた酒田飽海交流大会を存続し団員等の交流もこれまでと同様にいうと共に、県交流大会の地区大会予選会も一部を除き一緒にやり、競技力の向上にも寄与していると考えられます。今後酒田市スポーツ少年団活動の充実を図っていきたいと考えています。

単位団紹介

山形県スケートスポーツ少年団

代表指導者 佐藤 秀樹

山形スケートスポーツ少年団は、次
の加藤条治を育成する一を目標に03年
より活動を開始し、06年より正式にス
ポーツ少年団に加盟しました。

最初から学区は意識しておらず、小
中学生であれば誰でも入会可能として
おります。

現在の指導者は、べにはな国体の時
に短距離で活躍した北海道出身の佐藤
秀樹監督を中心に、中学時代に北海道で
活躍した永井幹男コーチと、中央高校時
代に加藤条治選手と一緒に国体に出場
した高梨兼吾コーチが指導しています。

出来るだけ保護者の負担が少ない様
に、用具はレンタルをお願いし、週四
回を、落合のスケートリンクでの一般
滑走とは違う山形県スケート連盟の貸
切時間帯を利用して、間近に中央高校
の練習を見ながら練習しております。
夏の練習は毎週末に基礎体力を付ける
為の練習をしたり、インラインスケー
トを使って練習をしています。

まだまだ始まったばかりのスポーツ
少年団ですが、
この中から加藤
条治選手に続け
てオリンピック
に出場出来る選
手を育成したい
と思っております。
(記 高梨 晃一)



新庄リトルラビッツ ミニバスケットボールスポーツ少年団

代表指導者 小島 憲

新庄リトルラビッツは、新庄市内の
沼田小・北辰小の女児を対象に、現在
活動しています。昭和六十二年、前身
の「北辰ミニバス」発足から数え、昨
年二十年を迎えました。

この二十年の間に、全国大会、東北
大会などの大きな大会に何度となく出
場を果たしてきましたが、指導する上
で一番大事にしていることは、まず大
きな声を出すという事です。あいさつ
返事をしっかりとし、礼儀正しい子供た
ちになるように心掛けています。

また、今の自分に満足せず、常に上
のレベルを目指し、一生懸命練習に取
り組むこと。この二つが、「勝利」へと
つながる事だと感じています。

年数回、青森、秋田、宮城など東北
各県へ遠征に出掛け、試合やホームス
テイを通じての仲間づくりも、子供た
ちにとって大きな財産となっています。
団員の減少により、チームの運営も
いろいろと大変になってきております
が、これからもバスケットを通じ、苦
しさを乗り越え
られる強い気持
ちと、仲間を大
事に思いやる心
を伝え続けてい
きたいと思いま
す。

名前の由来で
もあるJALラ
ビッツの選手た
ちのように、全
力がんばって
いきます。



沖庭スポーツ少年団

代表指導者 塚原 豊

小国町立沖庭小学校学区の児童を対
象に平成元年四月に発足し十七年が経
ちました。夏はソフトボール、冬はフツ
トサル、スキーの複合型のスポーツです。
その間、男女で全国大会一回、北日本
ソフトボール大会三回に出場し多くの
感動と思いの出を作ってきました。これ
も町当局は勿論、母集団、地域の皆様
の当スポ少に対する絶大なご支援と
「地域の子供は地域で育てる」を真に実
践している表れであり、当スポ少の誇
りであり大きな力となっております。

幸い当スポ少は沖庭小学校を拠点に
活動している事からグラウンドを自由
に使用する事が出来ます。

雪解けから始まる活動は春の日差し
を体一杯に浴びて伸び伸びと明るく楽
しく元気に頑張っています。

しかし、少子化による児童数の減少
小学校の統廃合の加速化に伴い沖庭ス
ポ少の存続が危惧されますが、今迄以
上に母集団・地域の方、指導者が結束
し特色の有る魅力溢れるスポ少活動を
推進して行きたいと思っております。

そして、沖庭スポ少を巣立った子供
たちが将来、故
郷「沖庭」の地
で、或いは他の
地に行っても
「故郷を・スポー
ツを愛せる人」
になつてくれる
事を願い夢みて
今後も努力して
行きたいと思
います。



あすなるPHEINIX バスケットボールクラブスポーツ少年団

指導者 那須 耕司

あすなるバスケットボールクラブは、
平成七年に遊佐町内の小学校を対象に
週一回の練習から始まりました。その
後、平成十二年よりスポ少登録し、現
在は町内四つの小学校から二十七人の
子供達が週三回(二年生以下は一回)
練習をしています。

まだまだ歴史が浅く、複数の小学校
から寄せ集めのため、学校行事との日
程調整など大変な点もありますが、子
供達にとって学区の隔たりはまったく
なく、楽しく活動しています。

徐々にはありますが、勝敗に関係
なく交流いただけるチームも増え、近
年は地域大会優勝や、昨年は山形県交
流大会優勝と、成績も残すようになって
きました。また、あすなるのバスケッ
トは「ライフエンスをがんばる」をモツ
トに、先輩から後輩へ受け継がれて
きています。

スポ少登録した一期生も高校卒業を
迎えますが、「あいさつ」や「声だし」
等一から始まった当時を振り返ると夢
のような思いです。まだまだチーム・
指導者とも未熟な点が多いのですが、
これまで先輩が
築き上げた伝統
と、交流チーム
とのつながりを
大切にし、何よ
りも子供達・保
護者・指導者が
一つになつて楽
しみながら続け
ていければと思
います。



団員の夢



中山柔道
スポーツ少年団
井上 傑

ぼくが柔道を始めたのは、三年生の時です。何かスポーツをやりたいくて、柔道スポーツを見学に行ったのがきっかけで決めました。

三・四年生の時は、勝ちたいという気持ちはまだありませんでした。でも、先輩が県大会で三位に入賞した姿を見て、ぼくも勝ちたい、選手になりたいという気持ちになりました。

五年生の時、県大会の団体戦で選手になりました。でも、試合では全部負けてしまい、今までにないすごく悔しい思いをしました。それからは、家で練習したり、中学生にけいこをしてもらったりして一生懸命がんばりました。六年生の団体戦では、Aブロックで三位、県大会で八位になりました。ぼくの成績は、三回一本勝ちして、一回負けました。初めて、一本勝ちしたので、すごくうれしかったです。

六年生最後の山辺町長杯では、団体戦と個人戦の両方で一位になりました。個人戦で入賞したことがなかったのですごくうれしかったです。

ここまでやってこられたのは、指導してくださった先生方や、送り迎えしてくれたお父さんやお母さんのおかげだと思感謝しています。

中学校に進んでも、しっかり自分の目標を決めてがんばりたいと思います。

目標



瀬見
スポーツ少年団
板垣 大和

レディーゴー、コーチの掛け声で私たちはコースへ飛び出します。どんな寒い日も、どんなきついコースにも、その一声で歯をくいしばってコースへ飛び出します。

私たちの少年団からは、昨年のトリノオリンピックに出場した曾根田千鶴先輩をはじめ全国で活躍した先輩が数多くでていて、かつては全国でも注目される少年団だったそうです。でも今は小学生だけの少年団になって県の大会でもなかなか勝てる人はいなくなりました。でも今もみんなで練習をがんばっています。スキーは個人種目だけどポール練習などするときには、みんなで協力しないとコーチだけが大変です。私たちのコーチは夢じゃなく目標を持ってと言います。夢は見るもの誰でも見れる、目標は叶えるものそれに向かって頑張るものと言います。私は人よりちよつと太めなのでなかなか人と同じようにはできないけれど、スキーだけは大好きです。時間はかかってもいいから投げ出さないで最後までしっかりやりなさいと、コーチも言ってくれます。私は多くの偉大な先輩達に負けないよう、これからも練習を頑張る、ぼくの最大のライバルの妹と一緒に、全国を目標に頑張りたいと思います。

四年間の思い出



南部レッドスターズ
スポーツ少年団
加藤 幸樹

ぼくは、三年生の新人戦の時に初めて試合に出ました。その時は、かなり緊張しました。でも初めて試合に出ることになった時、とてもうれしかったです。そこから「もつともつと野球が上手になりたい。」と思いました。だから毎日の練習をがんばりました。四年生になってレフトを守ることになりました。わからないことばかりだったのですが、いつも、キャプテンに教えてもらってばかりでした。そのおかげで、だんだん野球のことがわかってきました。そこからぼくは「絶対にたよられるキャプテンになる。」と決めました。五年生の新人戦の時、キャプテンになりました。うれしかったです。ぼくはキャプテンになったかぎりみんなをまとめて全国大会に行くという目標ができました。その目標に向かっていっぱい練習しました。でも全国大会に行くことはできませんでしたが、その後ろうきん杯で県大会に行けることになりました。優勝はできなかったけど準優勝になりました。悔しかったけどうれしかったです。これからは野球をするので今度こそ良い成績が出るようにがんばります。

新たな目標に向かって



三川柔道
スポーツ少年団
木村 望

私は、もうすぐ中学生になる。小学生とは違う環境になれていかなければならない。また、柔道も難しくなると思う。私は不安ではない。

私が柔道を習い始めたのは、小学二年生の時、兄がやっているのを見て、「やりたい」と思ったからだ。実際にやってみると、最初はまったくおもしろくなかった。でも、二年生の県の個人戦で準優勝することができた。そこからだ。柔道がとても楽しいものだと気づいたのは、三年生の時、初めて優勝したのもこの大会だった。とてもうれしかった。六年まで連続して優勝し、五・六年の時は全国大会にも出場し、ベスト16となり、とても良い経験になった。

今まで、柔道を頑張ることができたのも、教えてくださった先生方、つらい練習と一緒に頑張った友達、いつも応援してくれる家族のおかげだ。先生方からは中学生になっても教えていただき、頑張っていきたい。

私の新たな目標は、中学校でも、県大会で優勝し、全国大会に出場することだ。できれば、小学生で果たせなかった上位入賞に挑戦したい。簡単な事ではないかもしれないが、精一杯頑張りたい。

第14回山形県青少年スポーツ交流大会 開催種目 会場 参加者数 一覧

No.	種目	開催期日	会場	参加者数
1	柔道	10月1日	山形県体育館主競技場	318
2	剣道	10月1日	山形県総合運動公園総合体育館アリーナ	501
3	バスケットボール	10月1日	大江町体育センター	869
			中山町総合体育館	
			寒河江市市民体育館	
			上市市立南小学校体育館	
			真室川町民体育館	
真室川町立真室川小学校体育館				
4	サッカー	10月1日	山形県総合運動公園 サッカー場・ラグビー場・第2運動広場	442
		10月9日	真室川町民多目的運動広場	
5	軟式野球	9月30日	新庄市民球場	347
			大蔵村野球場	
			最上西公園野球場	
			戸沢村野球場	
6	バレーボール	10月1日	新庄市体育館	496
7	卓球	10月7日	山形県体育館	338
8	バドミントン	9月30日	鶴岡市小島木原総合体育館	277
9	ソフトボール	9月30日	鶴岡東部運動公園広場 赤川河川運動広場	206
10	ソフトテニス	9月30日	山形県総合運動公園テニスコート	325
11	陸上競技	10月1日	山形県総合運動公園陸上競技場	516
12	体操	10月1日	酒田市国民記念体育館大アリーナ	118
13	空手道	10月1日	山形県立天隆高等学校体育館	243
14	レスリング	10月1日	山形県立山形高等学校レスリング場	48
15	相撲	10月7日	米沢市営相撲場	56
16	トランポリン	10月1日	山形市体育文化センター	80
計				5,180

「べにばな国体」開催を記念した山形県青少年スポーツ交流大会は今年で第十四回目を数え、十月一日を主会期に、県内各地区二十九会場において十六種目、五、一八〇名の参加を得て開催されました。

県青少年スポーツ交流大会

第33回日独スポーツ少年団同時交流受入日程

時間・日付	1日目 7月21日(日)	2日目 7月22日(日)	3日目 7月23日(月)	4日目 7月24日(火)	5日目 7月25日(水)	6日目 7月26日(木)
7:00		☆朝食 ホームステイ先	☆朝食 ホームステイ先	☆朝食 ホームステイ先	☆朝食 ホームステイ先	☆朝食 ホームステイ先
8:00		○各家庭より集合	○各家庭より集合	○各家庭より集合	○各家庭より集合	○各家庭より集合
9:00	○大津プリンスホテル出発	○米沢市営体育館出発	○米沢市営体育館出発	○米沢市営体育館出発	○米沢市営体育館出発	○米沢市営体育館出発
10:00		○地元青少年と交流活動 (高島町小島キャンプ場)	○ホームステイ先プログラム 各家庭での活動	○スポーツ交流活動 ●ピームライフル (山形市ライフル射撃場)	○スポーツ交流活動 ●弓道 (米沢市営武道部弓道場)	○各家庭より集合
11:00		○昼食 毛ばらち体験 (二井宿地区公民館)	○昼食 毛ばらち体験 (山形県民文化センター)	○昼食 毛ばらち体験 (山形県民文化センター)	○昼食 毛ばらち体験 (山形県民文化センター)	○出発 宮城県へ
12:00	(移動)					
13:00		○高島町内見学 (ほたる谷の歴史公園 (亀岡文庫))		○文化交流活動 ●よさこいソーラン (山形県民文化センター)	○スポーツ交流活動 ●水泳(飛込) (米沢市営プール)	
14:00						
15:00	○米沢市到着					
16:00	○歓迎式(米沢市役所)	○米沢市営体育館到着	○米沢市営体育館到着	○米沢市営体育館到着	○米沢市内見学 (田町の社)	
17:00	○民芸家庭園参観 (米沢市役所)	○ホームステイ先へ	○ホームステイ先へ	○ホームステイ先へ	○さまならパーティー (上杉城史跡)	
18:00	○ホームステイ先へ					
19:00	☆夕食 ホームステイ先	☆夕食 ホームステイ先	☆夕食 ホームステイ先	☆夕食 ホームステイ先	☆夕食 ホームステイ先	
20:00						

七月二十一日〜二十六日 置賜支部
ホストファミリー
後藤謙一、伊藤政律、小出仁、玉虫由紀子、吉村浩、高田直美、伊左治洋之、荒木正典
(米沢市の方々)



日独同時交流受入

スポーツ少年団認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会

コース名	期日	会場	内容
庄内(鶴岡)会場	10月14日(日)～15日(月)	鶴岡市武道館	参加者37名 ・内13名認定
最上会場	11月11日(日)～12日(月)	ねぐわく新庄	参加者32名 ・内5名認定
村山(北)会場	11月25日(日)～26日(月)	大石町福祉会館・大石第一中学校	参加者61名 ・内10名認定
酒田会場	11月25日(日)～26日(月)	飯沼町民総合センター・飯沼町民スポーツセンター	参加者58名 ・内31名認定
庄内(田川)会場	11月25日(日)～26日(月)	鶴岡市朝陽武道館・小真木原総合体育館	参加者64名 ・内27名認定
村山(東)会場	12月2日(日)～3日(月)	山形市スポーツ会館・江南体育館	参加者87名 ・内29名認定
村山(西)会場	12月9日(日)～10日(月)	大江町中央公民館・大江町体育センター	参加者37名 ・内18名認定

日本スポーツ少年団指導者制度が変わった初年度、七会場で開催されました。講習会の実施形態は従来通りですが、昨年度までの六単位十四時間の集合講習から、集合講習十一科目十四時間・自宅学習二十一時間の計三十五時間に変更して、そして、これまでではなかった検定試験を実施しました。また、この認定員講習会を修了し、「認定員」資格を認定された指導者に対しては、「財」日本体育協会公認「スポーツリーダー」資格も与えられることになりました。今年度の参加者三七六名の内、一三四名を認定し、二四二名を保留した。なお、保留した方については、十九年度登録することにより認定されます。

認定員養成講習会



市町村スポ少・スポ空研修会
二月二十八日、山形県スポーツ会館において六十四名が参加して開催されました。研修会に先立ち、山形県スポーツ少年団表彰式を行い、研修会では、日本スポーツ少年団常任委員 山岸三夫氏より、「子どもにとってスポーツの楽しさと魅力とは」について講義をいただき研修を深めました。

十一月十八日、ニューグランドホテル(新庄市)において開催し、指導者、育成母集団関係者九十七名が参加しました。研修会に先立ち、日本スポーツ少年団顕彰伝達式を行い、研修会では、パイオニアレッドウィングス栄養トレーナー山口喜代美さんより「成長期を支える生活」の講義ののち、事例発表、研究協議を行いました。

県指導者研修会兼育成母集団研修会

県の動き

表彰

○生涯スポーツ表彰

〔功労者〕安部新一（長井市）、坂田喜一郎（川西町）、村田久忠（鶴岡市）

〔優良団〕わかくさサッカースポーツ少年団（飯豊町）、戸沢道場柔友会スポーツ少年団（戸沢村）

○日本スポーツ少年団顕彰

〔市区町村表彰〕遊佐町スポーツ少年団（指導者表彰）後藤貞夫（山辺町）、奥山保雄（東根市）、文屋正道（白鷹町）、蛸井正孝（鶴岡市）

○山形県スポーツ少年団表彰

〔功労者〕後藤光之（山形市）、佐々木康行（山辺町）、遠藤啓一（寒河江市）、遠藤好一（村山市）、村松寛司（金山町）、白田一雄（米沢市）、伊藤金栄（小国町）、熊木誠（鶴岡市）、小池弘子（鶴岡市）、阿部俊一（鶴岡市）

〔優良団〕ほなみバレーボール部スポーツ少年団（山形市）、月岡ミニバスケットボールスポーツ少年団（上市市）、三泉剣道スポーツ少年団（寒河江市）、大富ベースキングスポーツ少年団（東根市）、新庄地区柔剣道錬成会スポーツ少年団（新庄市）、米沢南部野球スポーツ少年団（米沢市）、平野サッカースポーツ少年団（長井市）、致道サッカースポーツ少年団（鶴岡市）、朝陽剣道スポーツ少年団（鶴岡市）、松原ミニバスケットボールスポーツ少年団（酒田市）

各級スポーツ少年団資格取得者

○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 七コース開催
参加者三七六名（内一三四名認定）

各種事業

○シニア・リーダースクール

八月十日～十四日 静岡県
三上新一郎（長井市）、山田都茂美（白鷹町）、工藤直美（同）

○全国リーダー連絡会

九月二日～三日 東京都
〔指導者〕上野和義（鶴岡市）、廣川由香（小国町）、（リーダー）梅津優一（白鷹町）
○県スポーツ少年大会兼ジュニアリーダースクール
八月十～十二日 神室少年自然の家にて開催。二十七名の団員をジュニアリーダーとして認定。少年大会の部五十一名の団員、指導者十三名、リーダー会十一名参加

○全国スポーツ少年団競技別交流大会

〔サッカー〕（第三十回）八月五～十二日
福島県・東京都 山形ジュニアFC（山形市）〔バレーボール〕三月二十六～二十九日 長崎県 桜田バレー（山形市）〔剣道〕三月二十七～二十九日 岡山県 長井小桜剣道（長井市）

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

大会
〔軟式野球〕七月八日 福島県 天童北部小レッドジャイアンツ（天童市）〔サッカー〕七月二十八～三十日 山形県 ○SAフォルトナ山形フットボールクラブ（山形市）、泉田サッカー（新庄市）、松原サッカー（酒田市）、南沼原サッカー

（山形市）、天童中部サッカー（天童市）

〔柔道〕十一月二十五～二十六日 福島県 洗心館高橋柔道（天童市）、三川柔道（三川町）、東根市柔道教室（東根市）、山辺柔道（山辺町）

〔ミニバスケットボール〕三月二十八～二十九日 青森県 藤島ミニバスケットボール（鶴岡市）、高島N

BC（高島町）、滝山ミニバスケットボール（山形市）、余目女子ミニバスケットボール（庄内町）、上郷ミニバスケットボール（鶴岡市）、いずみミニバスケットボール（鶴岡市）

○日独同時交流派遣

七月二十日～八月十一日 二十三日間 日本スポ少団長団
総務 遠藤 啓一（寒河江市）
山形県派遣者
指導者 森 和也（川西町）
団員 井田 隼人（寒河江市）

○日中青少年スポーツ指導者交流派遣
三浦 修一（酒田市）

●編集後記●

第四十四回全国スポーツ少年大会を始め、予定の事業が大成に終了しました。関係者の並々ならぬご努力に編集者一同感謝申し上げます。

編集委員

委員長 梁 頼 吉弘
副委員長 渋谷 幸一
委員 齋藤 武司・馬場 高子
柴崎 美枝・藤山 一栄
志村 忠夫・安野 重幸
板垣 恵一・三浦 修一

小さな掛金・大きな補償 スポーツ安全保険

対象となる事故

- ★グループ活動中の事故
- ★往復中の事故
(5名以上の団体でご加入ください)

お問い合わせ

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321

財団法人 **スポーツ安全協会山形県支部**
(山形県体育協会内)